

みやぎ経済月報

(2014年11月)

平成26年11月28日

目次

| | | | |
|-----|----------------|-------|----|
| I | 本県の経済概況 | | 1 |
| II | 主な指標の動き | | 3 |
| | 鉱工業生産指数 | 9月 | 3 |
| | 大口電力使用量 | 9月 | 3 |
| | 新設住宅着工戸数 | 9月 | 4 |
| | 公共工事請負金額 | 10月 | 4 |
| | 大型小売店販売額 | 9月 | 5 |
| | 乗用車新車登録台数 | 9月 | 5 |
| | 消費者物価指数 | 9月 | 6 |
| | 求人倍率 | 9月 | 6 |
| | 雇用保険受給者実人員 | 9月 | 7 |
| | 企業倒産 | 10月 | 7 |
| III | 宮城県景気動向指数 (概要) | | 8 |
| IV | 全国・東北等の景況 | | 9 |
| V | 主要経済指標 | | 12 |

利用される方に

■この経済月報は、本県における経済活動の主要項目分野に着目し、当該分野の経済指標の数値変動をもとに、本県経済の状況をマクロ的視点から定性的に表現することを目的としています。

■資料は、官公庁、団体、会社等の業務資料および当該機関の刊行した統計資料等によったもので、資料をご提供いただいた関係各位に厚くお礼申し上げます。

■数字の単位未満は、原則として四捨五入しており、合計と内訳の計とが一致しない場合もあります。なお、指標の一部に速報値等を利用しており、翌月に数値変更の場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■統計表の符号は次のとおりです。

- 「▲」.....負数
- 「…」.....数字が得られないもの
- 「-」.....該当数字がないもの

■内容についてのご照会、ご意見は、
宮城県震災復興・企画部統計課
(分析所得班)
〒980-8570
仙台市青葉区本町三丁目8番1号
電話 022-211-2453 (直通)
にご連絡下さい。

■本誌の内容は、インターネットでもご覧いただけます。

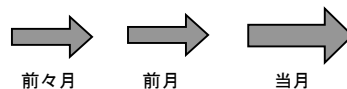


宮城県統計課ホームページ
<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/toukei/>

I 本県の経済概況

9月を中心とした宮城県経済の動向

一部に弱い動きがみられるものの、東日本大震災（以下「震災」という。）からの回復が緩やかに続いている。



- ・生産：震災の影響があるなかで、下げ止まりの動きである。
- ・住宅投資：増加傾向の動きとなっている。
- ・公共投資：持ち直しの動きがみられる。
- ・個人消費：持ち直しの動きとなっているが、一部に弱い動きがみられる。
- ・雇用：求人倍率は高水準で推移している。
- ・企業倒産：小康状態が続いている。

生産



鉱工業生産指数(9月)は、前月比が6か月ぶりの上昇となった。前年同月比は3か月ぶりの上昇となった。大口電力使用量(9月)は、前年同月比が2か月連続の低下となった。

住宅投資



新設住宅着工戸数(9月)は、前年同月比が持家は9か月連続の減少、貸家は5か月連続の増加、分譲住宅は4か月連続の増加となった。全体では5か月ぶりの減少となった。

公共投資



公共工事請負金額(10月)は、前年同月比が国は3か月連続の増加、県は2か月連続の増加、市町村は2か月ぶりの減少となった。全体では2か月連続の増加となった。

大型小売店



大型小売店販売額(9月、百貨店・スーパーの販売額の合計。)既存店比較は、前年同月比が3か月ぶりの減少となった。全店舗比較は、前年と同水準となった。

自動車



乗用車新車登録及び届出台数(9月・普通、小型、軽自動車の合計)は、前年同月比が6か月連続の減少となった。普通車は、前年同月比が6か月連続の減少、小型車は2か月連続の減少となった。軽自動車は4か月ぶりの増加となった。

物価



仙台市消費者物価指数(平成22年=100)(9月)生鮮食品を除く総合指数は、8か月ぶりの低下となり、前年同月比は17か月連続の上昇となった。総合指数は、2か月連続の上昇となり、前年同月比は17か月連続の上昇となった。

雇用



求人倍率(9月)は、有効は2か月連続で低下となった。新規は3か月ぶりに低下となった。雇用保険受給者実人員(9月)は、前年同月比が12か月連続の減少となった。

企業倒産



企業倒産(10月)は、件数は前年同月比20.0%の増加となり、2か月ぶりの増加となった。負債総額は、前年同月比が3か月連続の増加となった。大型倒産(負債総額10億円以上)は、発生しなかった。

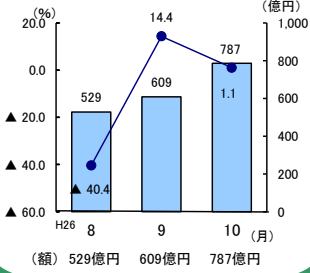
(⇔ は変化方向)

直近3か月の経済動向(前年同月比の動き)

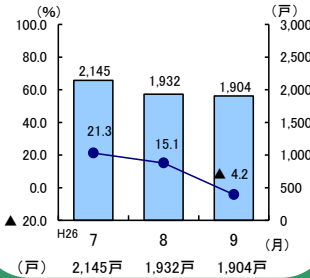
■ は実数値(右目盛)
● は前年同月比の推移(左目盛)
※1 既存店比較 ※2 前月差

投資

公共工事請負金額

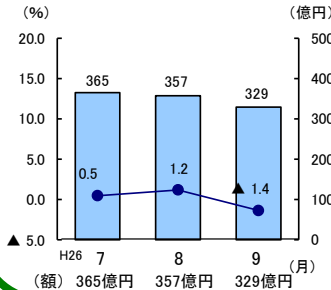


新設住宅着工戸数

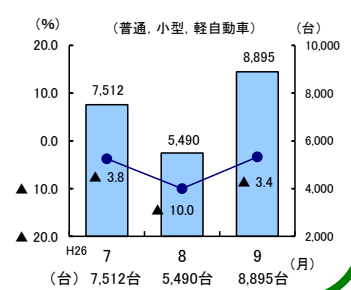


消費

大型小売店販売額※1

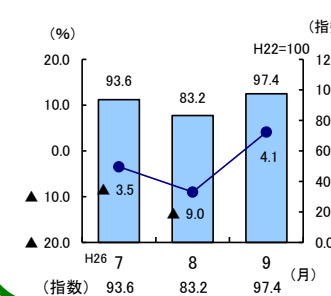


乗用車新車登録台数

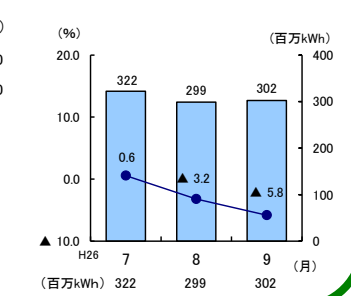


生産

鉱工業生産指数

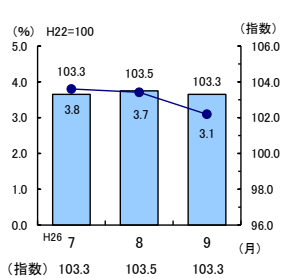


大口電力使用量

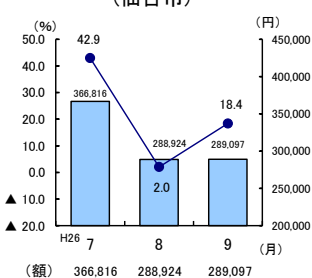


家計

仙台市消費者物価指数
(生鮮食品を除く総合)

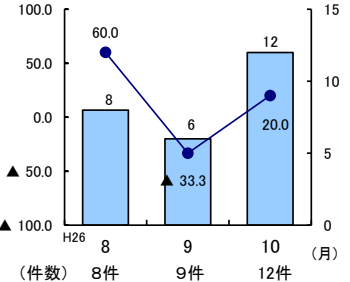


勤労者世帯消費支出
(仙台市)



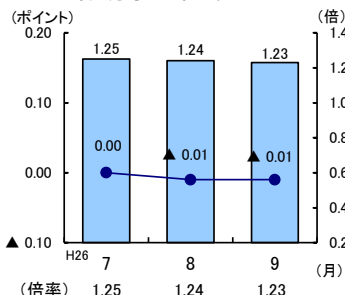
企業倒産

企業倒産件数

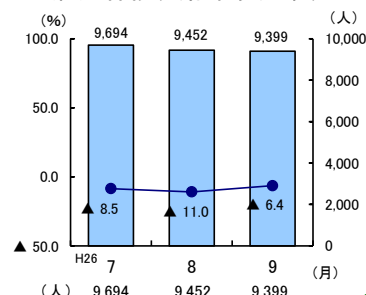


雇用

有効求人倍率※2



雇用保険受給者実人員



Ⅱ 主な指標の動き

1 生産

(1) 鉱工業生産指数

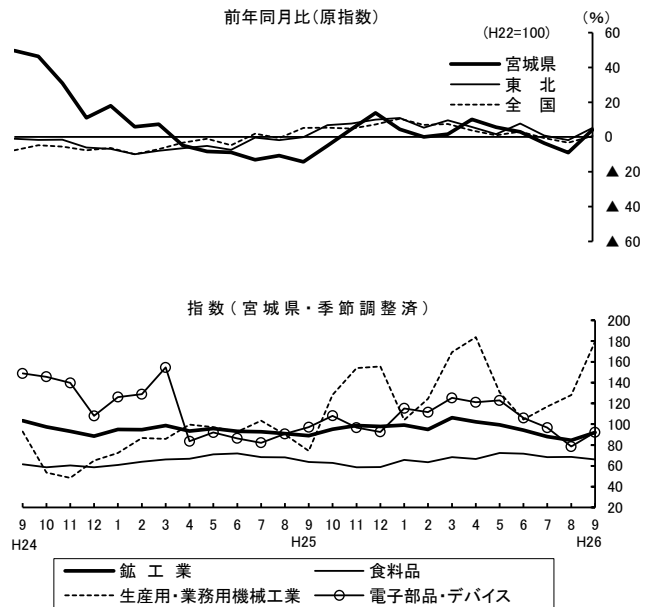
9月の鉱工業生産指数(季節調整値, 平成22年=100)は92.1(速報値)で, 前月比8.9%の上昇となり, 6か月ぶりの上昇となった。

業種別にみると, “生産用・業務用機械工業”, “電子部品・デバイス工業”など12業種が上昇となった。一方で, “食料品工業”, “パルプ・紙・紙加工品工業”など6業種が低下となった。

前年同月比は4.1%の上昇となり, 3か月ぶりの上昇となった。

(資料: 県統計課)

→ 数値データは13ページに掲載



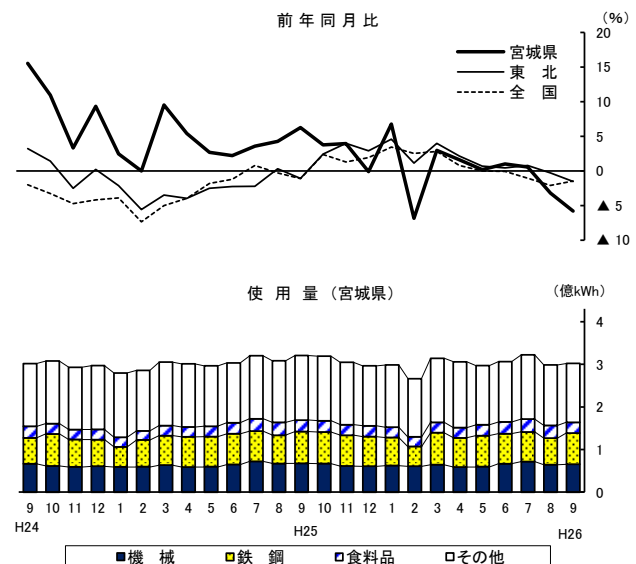
(2) 大口電力使用量

9月の大口電力使用量(契約電力500kW以上)は3億238万kWhで, 前年同月比5.8%の低下となり, 2か月連続の低下となった。

業種分野ごとに前年同月比をみると, 機械分野は3.3%の低下となり, 3か月連続の低下となった。鉄鋼分野は1.2%の低下となり, 4か月連続の低下となった。食料品分野は7.5%の低下となり, 2か月連続の低下となった。

(資料: 東北電力(株))

→ 数値データは15ページに掲載



2 投 資

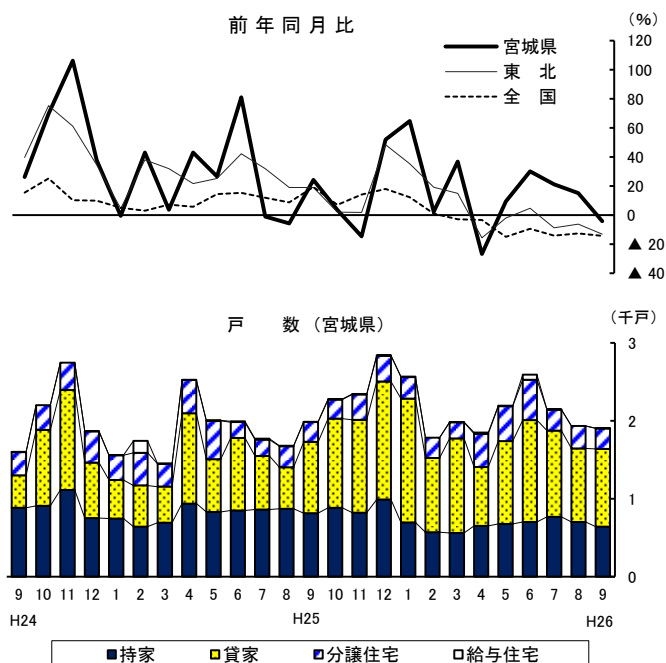
(1) 新設住宅着工戸数

9月の新設住宅着工戸数は1,904戸で、前年同月比4.2%の減少となり、5か月ぶりの減少となった。

利用関係別に前年同月比をみると、持家は21.3%の減少となり、9か月連続の減少となった。貸家は9.2%の増加となり、5か月連続の増加となった。分譲住宅は2.7%の増加となり、4か月連続の増加となった。分譲住宅のうちマンションは2か月連続の増加、一戸建ては2か月連続の減少となった。

(資料:国土交通省)

→ 数値データは16ページに掲載



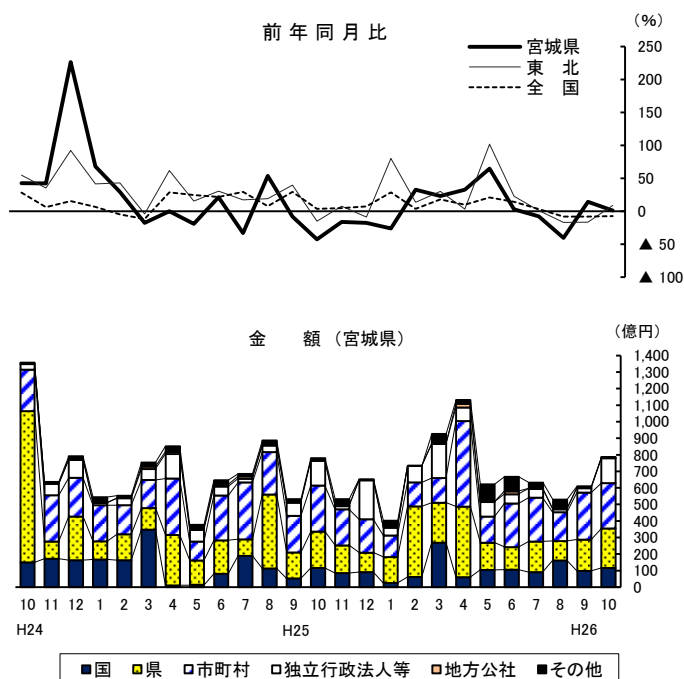
(2) 公共工事請負金額

10月の公共工事請負金額は787億1,400万円で、前年同月比1.1%の増加となり、2か月連続の増加となった。

発注主体別に前年同月比をみると、国は0.1%の増加となり、3か月連続の増加となった。県は8.5%の増加となり、2か月連続の増加となった。市町村は1.3%の減少となり、2か月ぶりの減少となった。

(資料:東日本建設業保証(株))

→ 数値データは18ページに掲載



3 消 費

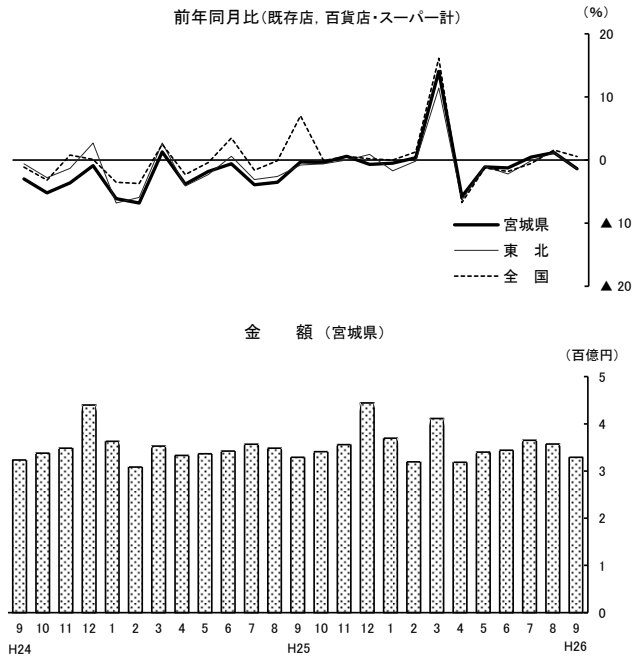
(1) 大型小売店販売額

9月の大型小売店販売額は329億2,600万円となった。前年同月比で見ると、既存店比較で1.4%の減少となり、3か月ぶりの減少となった。全店舗比較は、前年同水準となった。

商品目別(既存店比較)にみると、衣料品は3.5%の減少となり、6か月連続の減少となった。身の回り品は9.0%の減少となり、2か月ぶりの減少となった。飲食料品は0.8%の増加となり、5か月連続の増加となった。

(資料:東北経済産業局)

→ 数値データは19ページに掲載



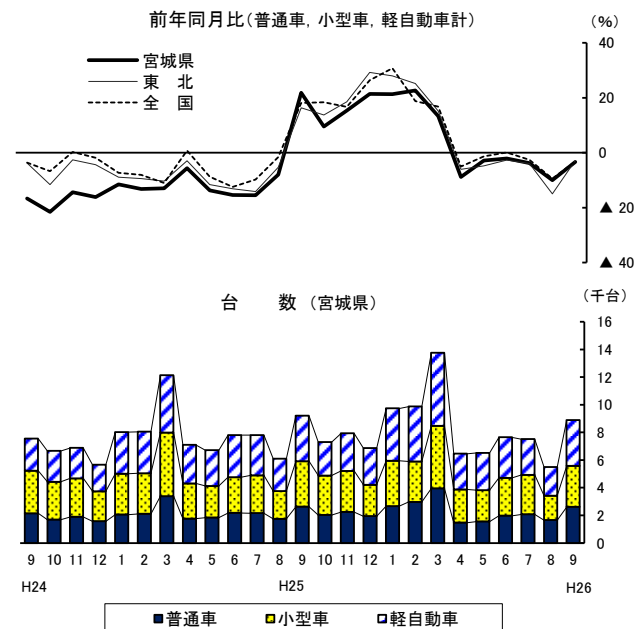
(2) 乗用車新車登録台数

9月の乗用車新車登録及び届出台数(普通乗用車、小型乗用車、軽乗用自動車の合計)は8,895台で、前年同月比3.4%の減少となり、6か月連続の減少となった。

車種別に前年同月比をみると、普通車は0.4%の減少となり、6か月連続の減少となった。小型車は9.8%の減少となり、2か月連続の減少となった。軽自動車は0.7%の増加となり、4か月ぶりの増加となった。

(資料:自動車販売協会連合会宮城県支部、
全国軽自動車協会連合会)

→ 数値データは22ページに掲載



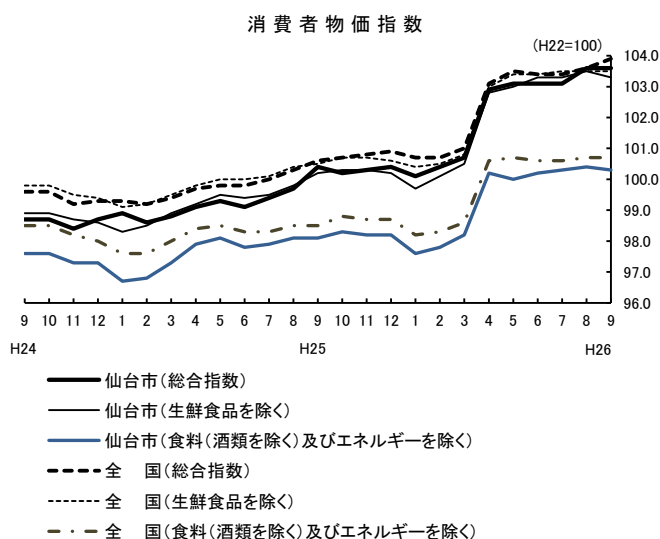
4 物 価

9月の仙台市消費者物価指数のうち生鮮食品を除く総合指数(平成22年=100)は103.3で、前月比0.2%の低下となり、8か月ぶりの低下となった。食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数(同)は100.3で、前月比0.2%の低下となり、4か月ぶりの低下となった。総合指数(同)は103.6で、前月比0.1%の上昇となり、2か月連続の上昇となった。

前年同月比でみると、生鮮食料品を除く総合指数(同)は3.1%の上昇となり、17か月連続の上昇、食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数(同)は2.2%の上昇となり、17か月連続の上昇、総合指数(同)は3.2%の上昇となり、17か月連続の上昇となった。

(資料:県統計課)

→ 数値データは31ページに掲載



5 雇 用

(1) 求人倍率

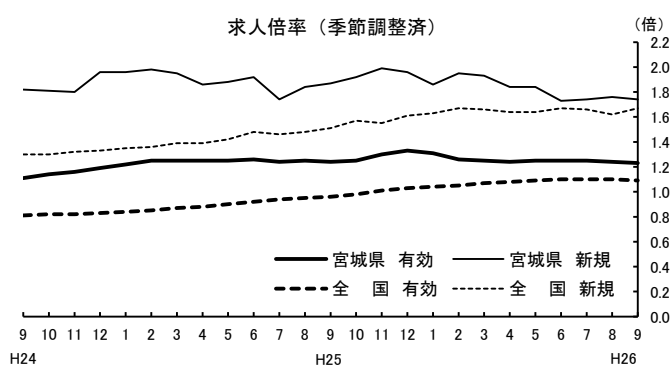
9月の有効求人倍率(季節調整値, 新規学卒者除きパートタイム含む)は1.23倍で、前月を0.01ポイント下回り、2か月連続の低下となった。新規求人倍率(同)は1.74倍で、前月を0.02ポイント下回り、3か月ぶりの低下となった。

月間有効求人数及び新規求人数(新規学卒者除きパートタイム含む)は、有効は前年同月比5.5%の減少となり、8か月連続の減少となった。新規は前年同月比2.8%の減少となり、8か月連続の減少となった。

新規求人数を産業別にみると、“医療、福祉”や“製造業”で増加，“サービス業”や“宿泊業・飲食サービス業”などで減少となった。

(資料:宮城労働局)

→ 数値データは27ページに掲載

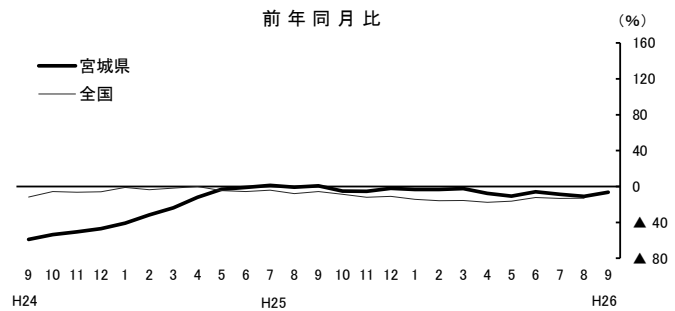


(2) 雇用保険受給者実人員

9月の雇用保険受給者実人員は9,399人で、前年同月比6.4%の減少となり、12か月連続の減少となった。

(資料:宮城労働局)

→ 数値データは29ページに掲載



6 企業倒産

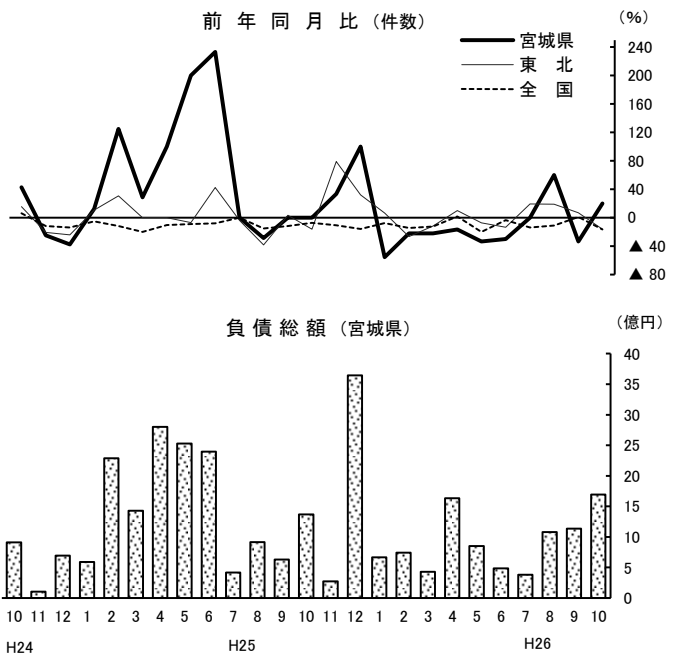
10月の企業倒産(負債総額1,000万円以上)は12件で、前年同月比20.0%の増加となり、2か月ぶりの増加となった。

負債総額は16億9,200万円で、前年同月比23.9%の増加となり、3か月連続の増加となった。

大型倒産(負債総額10億円以上)は発生しなかった。不況型倒産(販売不振, 売掛金回収困難, 赤字累積)の件数は11件となり、全体に占める構成比は91.7%となった。

(資料:株東京商工リサーチ)

→ 数値データは30ページに掲載



Ⅲ 宮城県景気動向指数（概要）

1 概況

平成26年9月のC I（H22=100）は、**先行指数 120.6**，**一致指数 122.8**，**遅行指数 192.5** となった。
 先行指数は前月差で 3.9ポイント上昇し、6か月ぶりの上昇となった。
 一致指数は前月差で 1.6ポイント上昇し、3か月ぶりの上昇となった。
 遅行指数は前月差で 1.4ポイント下降し、2か月ぶりの下降となった。

2 景気動向指数（C I）の推移及び個別系列の寄与度

(H22=100)

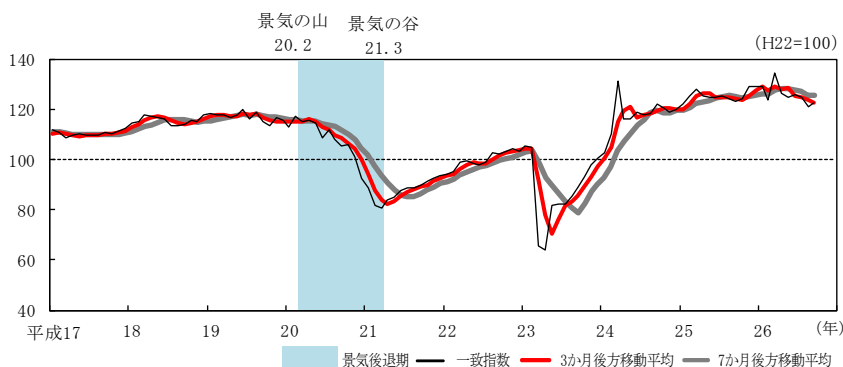
| 系 列 名 | 平成26年 | | | | | | |
|---------------------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|---|
| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | |
| C I 先行指数 | 127.6 | 126.5 | 122.7 | 120.3 | 116.7 | 120.6 | |
| 前月差（ポイント） | -6.3 | -1.1 | -3.8 | -2.4 | -3.6 | 3.9 | |
| 3か月後方移動平均 | 130.0 | 129.3 | 125.6 | 123.2 | 119.9 | 119.2 | |
| 7か月後方移動平均 | 131.6 | 131.5 | 130.1 | 127.8 | 125.2 | 124.0 | |
| L1 新規求人数(学卒除く、パート) | 1.62 | -0.67 | -1.36 | 0.78 | 0.24 | -0.62 | 1 |
| L2 投資財生産指数 | -0.78 | -1.51 | -1.44 | 0.64 | -0.20 | 1.49 | 2 |
| L3 生産財生産指数 | 0.12 | -0.67 | -2.26 | -3.06 | -2.34 | 1.73 | 3 |
| L4 日経商品指数(42種) | -0.47 | -0.78 | 0.05 | 0.06 | -0.32 | -0.63 | 4 |
| L5 乗用車新車新規登録台数(軽含む) | -5.01 | 1.19 | -0.56 | -0.46 | -0.28 | 2.28 | 5 |
| L6 新設住宅着工床面積 | -1.72 | 1.72 | 0.74 | -1.27 | -0.43 | -0.40 | 6 |
| L7 全銀貸出残高(前年同月比) | 1.88 | 0.80 | -0.77 | -0.14 | 0.28 | 0.17 | 7 |
| L8 中小企業業界景況感(前年同月比) | -2.58 | -1.75 | 1.34 | 0.52 | -1.01 | -0.46 | 8 |
| 一致トレンド成分 | 0.61 | 0.59 | 0.52 | 0.47 | 0.45 | 0.43 | |
| C I 一致指数 | 126.4 | 124.8 | 125.7 | 124.7 | 121.2 | 122.8 | |
| 前月差（ポイント） | -8.1 | -1.6 | 0.9 | -1.0 | -3.5 | 1.6 | |
| 3か月後方移動平均 | 128.3 | 128.6 | 125.6 | 125.1 | 123.9 | 122.9 | |
| 7か月後方移動平均 | 128.1 | 128.2 | 127.7 | 127.1 | 125.9 | 125.7 | |
| C1 所定外労働時間指数(調査産業計) | 0.89 | -1.07 | -0.60 | 0.72 | -0.60 | 0.06 | 1 |
| C2 有効求人倍率(合計) | -0.93 | -0.02 | -0.54 | -0.34 | -0.75 | -1.23 | 2 |
| C3 実質定期給与指数(製造業) | -0.83 | -0.57 | 1.98 | 0.58 | -0.31 | 0.02 | 3 |
| C4 鉱工業生産指数 | -1.17 | -0.74 | -1.46 | -1.84 | -1.07 | 3.16 | 4 |
| C5 大口電力使用量 | -0.40 | -1.16 | 0.54 | 0.04 | -1.17 | -0.31 | 5 |
| C6 実質大型小売店販売額(前年同月比) | -6.66 | 1.48 | -0.17 | 0.58 | 0.02 | -0.64 | 6 |
| C7 輸入通関実績 | 1.06 | 0.45 | 1.14 | -0.67 | 0.31 | 0.60 | 7 |
| C I 遅行指数 | 174.8 | 176.8 | 202.2 | 170.0 | 193.9 | 192.5 | |
| 前月差（ポイント） | 11.0 | 2.0 | 25.4 | -32.2 | 23.9 | -1.4 | |
| 3か月後方移動平均 | 165.9 | 171.8 | 184.6 | 183.0 | 188.7 | 185.5 | |
| 7か月後方移動平均 | 163.4 | 165.9 | 171.9 | 171.9 | 177.2 | 182.0 | |
| Lg1 離職者数(事業主都合)〔逆〕 | -6.70 | 6.36 | -2.92 | 1.81 | -3.63 | 3.77 | 1 |
| Lg2 雇用保険受給者実人員〔逆〕 | 5.42 | -3.23 | -2.44 | 0.71 | -0.43 | -2.87 | 2 |
| Lg3 消費者物価指数(仙台市, 前年同月比) | 13.20 | -1.36 | 2.35 | -1.58 | -1.63 | -5.50 | 3 |
| Lg4 勤労者世帯消費支出(仙台市, 前年同月比) | -2.24 | 1.96 | 7.78 | -0.94 | -6.02 | 2.53 | 4 |
| Lg5 営業倉庫保管残高 | 3.64 | 0.81 | 7.50 | -4.75 | 7.53 | -2.73 | 5 |
| Lg6 法人事業税調定額 | -3.08 | -3.34 | 12.31 | -28.13 | 27.41 | 2.64 | 6 |
| 一致トレンド成分 | 0.78 | 0.82 | 0.79 | 0.72 | 0.69 | 0.69 | |

(注)

〔逆〕は逆サイクル系列を表す。

C1所定外労働時間指数とC3実質定期給与指数は現時点で算出に含まれていないため、トレンド成分のみを通じた寄与度を表す。

3 景気動向指数（C I）一致指数グラフ



IV 全国・東北等の景況

1 全国の景況

月例経済報告（内閣府） 11月25日 [<http://www.cao.go.jp/>]

景気は、個人消費などに弱さがみられるが、緩やかな回復基調が続いている

- ・個人消費は、持ち直しの動きが続いているものの、このところ足踏みがみられる。
- ・設備投資は、増加傾向にあるものの、このところ弱い動きもみられる。
- ・輸出は、横ばいとなっている。
- ・生産は、このところ減少している。
- ・企業収益は、改善に足踏みがみられる。企業の業況判断は、慎重となっているものの、大企業製造業ではやや改善している。
- ・雇用情勢は、着実に改善している。
- ・消費者物価は、このところ上昇テンポが鈍化している。

先行きについては、当面、弱さが残るものの、雇用・所得環境の改善傾向が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待される。ただし、消費者マインドの低下や海外景気の下振れなど、我が国の景気を下押しするリスクに留意する必要がある。

金融経済月報（日本銀行） 11月20日 [<http://www.boj.or.jp/>]

わが国の景気は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動などの影響から生産面を中心に弱めの動きが残っているが、基調的には緩やかな回復を続けている。

海外経済は、一部になお緩慢さを残しつつも、先進国を中心に回復している。輸出は横ばい圏内の動きとなっている。設備投資は、企業収益が改善するなかで、緩やかな増加基調にある。公共投資は高水準で横ばい圏内の動きとなっている。個人消費は、雇用・所得環境が着実に改善するも、基調的に底堅く推移しており、駆け込み需要の反動の影響は全体として和らいでいる。住宅投資は、駆け込み需要の反動減が続いているが、足もとでは下げ止まりに向けた動きもみられている。鉱工業生産は、在庫調整が続くも、弱めの動きが残っている。

先行きのわが国経済は、緩やかな回復基調を続け、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動などの影響も次第に収束に向かっているとみられる。

2 東北の景況

管内(東北6県)の経済動向 (東北経済産業局) 11月12日 [<http://www.tohoku.meti.go.jp/>]

全体の動向：緩やかな持ち直し傾向にあるものの、一部に弱い動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産：生産は弱含みで推移している。
- ・ 個人消費：持ち直し傾向にあるものの、一部に弱さがみられる。
- ・ 住宅着工：新設住宅着工戸数は、復興需要による下支えがあるものの、持家、分譲が減少したことから前年を下回った。
- ・ 公共投資：公共工事請負金額は、前年同月を下回ったものの、引き続き高水準で推移している。
- ・ 設備投資：設備投資は、緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用：新規求人倍率、有効求人倍率ともに高い水準となっており、改善の動きが続いている。
- ・ 企業倒産：倒産件数は、小康状態が続いている。

経済の動き (日本銀行仙台支店) 11月13日 [<http://www3.boj.or.jp/sendai/>]

東北地域の景気は、消費税率引き上げの影響による反動がみられるものの、基調的には緩やかに回復している。

最終需要の動向をみると、公共投資は、震災復旧関連工事を主体に、増加している。設備投資は、増加している。個人消費は、総じて底堅く推移しているが、耐久消費財では反動減からの持ち直しのペースが緩やかとなっている。また、住宅投資は、引き続き駆け込み需要の反動がみられているが、災害公営住宅の建設等から高水準で推移している。生産は、駆け込み需要の反動等から、足もとでは弱めの動きとなっている。こうした中、雇用・所得環境は、改善している。消費者物価(除く生鮮食品)は、前年を上回った。

地域経済報告—さくらレポート— (日本銀行) 10月20日

[<http://www.boj.or.jp/research/brp/rer/index.htm/>]

東北地域の景気は、消費税率引き上げの影響による反動がみられるものの、基調的には緩やかに回復している。

最終需要の動向をみると、公共投資は、震災復旧関連工事を主体に、増加している。設備投資は、増加している。個人消費は、総じて底堅く推移しているが、耐久消費財では反動減からの持ち直しのペースが緩やかとなっている。また、住宅投資は、引き続き駆け込み需要の反動がみられているが、災害公営住宅の建設等から高水準で推移している。生産は、駆け込み需要の反動等から、足もとでは弱めの動きとなっている。こうした中、雇用・所得環境は、改善している。消費者物価(除く生鮮食品)は、前年を上回っている。

3 宮城県の景況

県内景気の動き (七十七銀行) 11月25日 [<http://www.77bank.co.jp>]

最近の県内景況をみると、一部に弱い動きがみられるものの、震災復興需要などに伴い経済活動は総じて高水準で推移しており、基調としては緩やかに回復している。

生産はこのところ弱い動きがみられる。需要面の動きをみると、住宅投資は震災に伴う建替需要を中心に増加傾向となっている。公共投資は震災復旧工事などから高水準で推移している。個人消費は総じて底堅く推移しているが、一部に消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動からの持ち直しに足踏み感がみられる。一方、雇用情勢は総じて改善しているが、労働需給のミスマッチが残存している。

この間、企業の景況感、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動からの持ち直しの動きがみられるが、その足取りは重い状況となっている。